

# Campus通信 NO.35

## 極寒の農大で熱い「筋肉の祭典」開催!



### 「雪合戦」試合結果

- 優勝 畜産2年Aチーム
- 準優勝 畑園2年Bチーム
- 3位 畜産1年Aチーム



### 「フットサル」試合結果

- 優勝 畑園1年Aチーム
- 準優勝 畜産2年Bチーム
- 3位 畑園2年Bチーム

雪合戦は貫禄の2年生チーム、フットサルでは若さの1年生チームが優勝!



屋外での雪合戦、体育館でのフットサルどちらも農大生の熱気が溢れていました。

今年も恒例の冬季体育大会が開催されました。これは、「個人や団体、レクリエーション的スポーツに対する理解を深めるとともに、スポーツのルールを通じて社会生活におけるスポーツの役割や重要性を養成する。」このことを目的とした体育科目の一環として行われています。  
 今年は平均気温が平年より8.3℃も低い-14.9℃の中での開催でしたが、学生たちは元気いっぱいに極寒のスポーツに取り組んでいました。

## 平成24年度 プロジェクト発表会

### 畜産経営学科

課題名「受胎率の向上と雌雄の産み分け」  
 畜産経営学科2年 小野田 麻椰



自家では雄子牛の出生が多い時期があり、また、受胎率は低下傾向です。雌雄の出生比率は飼料成分によって異なると言われてますが、受胎率とともに、雌の出生率向上で、自家の子牛頭数増加と収益向上を考えました。

圧ペンコーンによるエネルギー増給試験を行った結果、発情行動が明確になり、受胎率は向上しました。雌雄産み分けに関しては頭数が少なかった為、もっと検証が必要ですが、エサの管理で可能性が見えました。今後、研究課程や自家で追究したいです。

### 畑作園芸経営学科

課題名「キタアカリの普及に向けた  
 馬鈴薯適正茎密度の検討」  
 畑作園芸経営学科2年 棚橋 将貴



馬鈴薯品種の中で単価が高く、消費者に人気の高い「キタアカリ」の普及を目指して栽培試験に取り組みました。このプロジェクトでは茎密度に注目し、2L・L玉率を高める栽培方法、自家経営での経済効果、消費者からのニーズを学ぶことが出来ました。

自家は現在営農を中断していますが、将来は新規就農し、母と共に40haの農地で営農を再開する計画です。そして、キタアカリをはじめ馬鈴薯を中心とした畑作経営を行っていきたいと思います。

### 農業経営研究科

課題名「花きの新規導入を目指して」  
 農業経営研究科2年 中島 瑠理子



大好きな「トルコギキョウ」を自家に新規導入すべく先進農家実習を行い、栽培管理の習得と作型の検討に努めました。実習成果から栽培管理を自家に適した形にまとめ導入作型を決定したほか、収益性を明らかにして目標達成に大きく前進しました。

### 意見発表

## 意見発表及び総合実習報告Ⅰ

- 畜産経営学科 1年 角川 桃 題名「好きこそものの上手なれ」
  - 畑作園芸経営学科 1年 吉村 諄郎 題名「野心を持って」
- 上記の2名は東日本農大協プロジェクト発表・交換大会(青森県)で発表を行いました



### 総合実習報告Ⅰ

- 農業経営研究科 1年 荻原 宙知ガブリエル 「新規就農に向けての酪農修行」
- 特に優秀と認められた荻原君は、十勝アグリフォーラムに続き、北海道青年農業者会議でも発表を行いました



# 2012年を振り返っての一言

## 1年間とこれから

畜産経営学科 1 学年  
伊藤 竜一 (むかわ町出身)



農大に入学し、早いもので1年も終わりを迎えました。入学当初は、同級生や先輩方と上手くやっていけるのか心配でしたが、授業や実習、寮生活を通して自然と仲良くなることができ毎日楽しく過ごしています。実習では、作業機の運転、搾乳など初めてのことばかりで、とても苦戦しましたが今ではだいぶ慣れてきました。朝・夕の畜当や9月の1ヶ月実習を通して様々な技術や知識を高めることができました。

2年目からはプロジェクト活動も本格化していくのでしっかり取り組んでいきたいです。そして、危険物・毒劇物・溶接・人工授精師など様々な免許取得や、卒業後には進学を目指しているので今まで以上に頑張っていこうと思っています。

残りの1年間の農大生活を楽しく過ごして笑って卒業できるように努力していこうと思います。

## 「多くのことを学べた1年間」

農業経営研究科 1 学年  
林 誠 (八雲町出身)



研究科最大の特徴は、自分が学びたいことを課題設定し、取り組む「総合実習」です。

私は、自家で長ねぎの連作障害対策が確立されていないことや養成課程で学んだ技術を実際に就農した時に役立てられるように、「簡易軟白長ねぎの費用低減と栽培技術習得」を課題に設定し、自家や各地の先進農家で播種や収穫作業を習得しました。また、連作障害への対策法の聞き取り調査などを行い、自家で作業をしている時には解らなかった技術をたくさん知ることができました。

来年度は、今年度学んだ栽培法や対策法を自家で実践し、就農後のイメージをつかみたいです。

研究科ではその他にも、就農後に役立つ講義や加工実習などがたくさんあります。

大変なこともあります。出会った仲間達と楽しく充実した日々を送りたいです。

## 農大での1年間

畑作園芸経営学科 1 学年  
尾形直哉 (美瑛町出身)



農大に入学してから1年が経とうとしています。この間はあっという間でしたが楽しいことや学ぶことが多く、充実した大学生活をおくっています。

この間、自分はまだ何事にも「力不足」であると感じました。私の実家は畑作農家で、小さいころから仕事を手伝い、高校も農業高校へ進学しました。しかし、他地域から進学してきた友達と実習や農業の話をしていても情報などが自分と比べて圧倒的に多くすごいと感じました。

そんな自分を変えるため、現在畑作部部長をやっています。入学当初から実習などで深く関わる役割に付き、将来の農業経営に役立てようと考え、自ら進んで部長になりました。大変な役割ですが、みんなを導けるように頑張りたいです。これから残り1年は自分を成長させ、充実したものにしたいです。

## 大学生活での感想

稲作経営専攻コース 1 学年  
南部 達彦 (新篠津村出身)



稲作経営専攻コースに入学し、拓殖大学北海道短期大学での生活が始まり、早くも1年が経とうとしています。実習では、収穫作業、収穫した農産物の調製、選別や片づけも終わって落ち着いてきました。

また、後期の授業も終わろうとしています。後期の授業では前期の内容よりも経営、国際農業など、より詳しい内容の勉強に取り組んでいます。

農大独自の授業として夏休みに、滝川の花野菜技術センターでの5日間の集中講義や、農大での集中講義、機械研修を行い、とても有意義な夏休みを過ごせました。中でも、農大の集中講義は、入学式やオープンキャンパスでしか農大の校舎に入ることがなかった私にとって、とても新鮮な感覚で講義を受けることができました。今後も楽しく充実した学校生活を過ごしていきたいと思っています。

# トピックス



農大の黒毛和牛がジェネティクス北海道枝肉共励会で優良賞を受賞



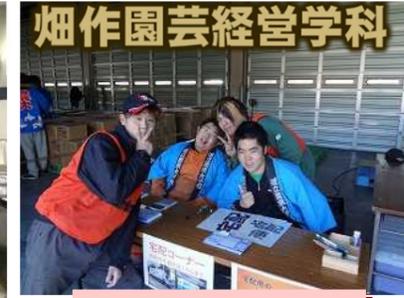
今年も農大牛肉は好評！肉質A5の高級牛肉をお客様へ



海外研修で訪れたオランダの風車をバックに



帯広調理師学校とピザ作りで交流



農大市で1年生も大活躍



海外研修 オーストラリアのワイナリー視察



愛情込めてアイスクリームのシール貼り作業



農大アイスはいかがですかっ！(イトーヨーカドー帯広店にて)



グリーンツーリズムは楽しいな♪(農業マーケティング演習)



拓大オープンキャンパスでスタッフとして活躍



体験学習の一コマ 受け入れ農家の皆さんと



異業種研修で 沖縄のゴーヤ収穫体験

発行者 北海道立農業大学校 〒089-3675 中川郡本別町西仙美里25-1 平成25年2月12日発行  
Tel 0156-24-2121(代表・総務)、2122(教務)、2700(研修) Fax 0156-24-2421(代表)  
e-mail nodai.kyomu1@pref.hokkaido.lg.jp  
URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/ngd/>